

トライアングル

発行日/令和5(2023)年11月 発行/一般社団法人 大阪知的障害者福祉協会 発行責任者/村上利男 編集/松嶋桂子
〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目4番15号 大阪府社会福祉会館内
TEL 06-6763-3785 FAX 06-6763-3759 E-mail osaka-chifukukyo@giga.ocn.ne.jp

特集 ソフトボールを通じた余暇活動

今号の特集は、障害のある方の余暇活動として1968(昭和43)年に始まった当協会のソフトボール大会が、現在どのような工夫によって開催されているかを知ること、利用者の方の余暇活動を通じた「自己決定」の意義や「余暇支援」の在り方を考えることにつながると思います、特集として取り上げることになりました。

第57回のソフトボール大会報告と、今川学園と第二わらしべ園の施設訪問の記事を合わせてお読みただくことで、より一層「余暇活動」の意義などのご理解が進むことを期待しております。

第57回大阪フレンドシップソフトボール大会

新型コロナウイルス感染症が2類から5類へ移行しての大会。

まだまだ感染を心配する声、練習不足や体力的に課題があることから1試合のみの交流戦を望む声、練習の成果を試したいことから総当たり戦を希望するチーム……。

6月1日の大会当日、交流戦に8チーム、総当たり戦に6チーム、総勢165名の選手が参加しての大会となりました。

みなさんの様子は、昨年にも増しても元気に、誇らしい表情で試合に臨まれ、応援に駆けつけてくれた事業所仲間の声援に励めるかのように一生懸命プレーする姿を拝見することが出来ました。大会終了後、チームエピソードをお寄せいただくのですが、今年は特に練習風景や生活場面の中で、仲間意識を育む様子が伺えたという内容を多く頂戴しま

した。

大会名称でもあるフレンドシップソフトボール大会が、試合をはじめいろんな場面で体現されているのだと読ませていただきました。また同時に、利用者一人ひとりの秘めている力を感じずにもおれませんでした。

この大会は共催でもある、社会福祉法人産経新聞厚生文化事業団、一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会に、利用者の明日につながる気持ちをお切に支えていただいています。またJCウエストからは試合球のボールを提供していただき、大会後には出場チームにプレゼントしていただきました。

最後になりますが、大会運営を支えてくれていますスタッフ委員と派遣いただいている法人事業所の管理者はじめ職員の皆様には、心より感謝を申し上げます。
(行事委員長 伊藤正寿)



特集	ソフトボールを通じた余暇活動	
	第57回大阪フレンドシップソフトボール大会	1
	やりたいなら、まずはやってみよう	
	～今川学園の初出場挑戦～	2
	合同チームで出場・初めての沖縄遠征	
	～第二わらしべ園 スポーツへの思い～	3

第41回スポーツフェスタ 2023 大阪	4
良い支援GH版・児童版発行	4
事務局長挨拶	4
●ちょっとつぶやきリレー●	
ひらかた・にじ福祉工場 工場長 高瀬(津田)佳子	4

今年初めて大阪フレンドシップソフトボール大会に参加された今川学園を訪問し、ふれあいホーム施設長の石丸陽亮氏とサービス管理責任者の蔭山美砂子氏よりお話を伺いました。

大阪フレンドシップソフトボール大会への参加のきっかけは、蔭山氏がソフトボール大会の案内を目にした時「やってみたら、おもしろそう!」と思ったことから始動しました。グループホームの利用者の皆さんに、ソフトボール大会の話をする「野球やりたい」との声が多数あったようです。もともとプロ野球を好きな方が多く、なかには名古屋まで観戦に行かれる方もいらっしやるほど野球好きの皆さんですが、観戦することがあっても実際にプレーする機会がありませんでした。しかし「できるかどうかわからないけど、やってみよう!」と皆さん気十分。作業や働いて貯めたお金で、グループを購入する方やグループホームに帰宅した後に、ボールとグローブを持って、自主練習をする方もおられたようです。

ソフトボールの練習では、石丸氏は2つの約束をしたと仰っていました。①バットとボールの扱いには気を付ける。②ミスがあっても責めずに楽しくプレーする一です。皆さんきちんと約束を守りつつ、練習に励んでいたそ

やりたいなら、まずはやってみよう ～今川学園の初出場挑戦～



練習日のランニング



練習の様子

うです。また練習を重ねるうちに、自然と足を揃えてランニングをしたり、試合当日には石丸氏の代わりに試合前練習で利用者の皆さんが率先してノック練習をするなど、自発的な姿が多く見られたと、蔭山氏は嬉しかったエピソードを話して下さいました。

職員からは、利用者の皆さんが「自分達やりたい! もっともっと頑張りたい!」と思えるような雰囲気作りや声掛けをするようにしていたとも仰っていました。

試合当日は、選手の方が所属されている日中事業所の職員や職場の方、グ

ループホームの世話人の方など、さまざまな応援もあり1勝することができました。参加した利用者の方からは「来年のソフトボール大会にむけて、練習がしたい!」との声もすでに上がっているようで、時期をみながら、実施していきたいとも話をされていました。

石丸氏と蔭山氏のお話のなかで、「やりたいなら、まずはやってみよう」という言葉が何度もありました。「難しいかな?」「無理かな?」ではなく、「どのようなサポートがあれば、利用者さんがケガなく楽しんでもらえるか」という視点で、職員の皆さんで考えてサポートしたと仰っていました。このような関わりを通して、利用者さんの興味・関心に繋がり、自分がしたいことや買いたいもの等を選択できる機会が余暇の充実にも繋がり、豊かな生活を送ることができているのだと感じました。来年のソフトボール大会の活躍も



試合当日

楽しみにしています。頑張ってください。
※最後に、「練習試合のお相手、絶賛募集中です!! 宜しくお願い致します」とのことです。
(広報委員 水津由依 吉村周一)

上／グローブを購入 下／沖縄遠征時の練習風景



隆光学園と合同チームで大阪フレンドシップソフトボール大会に参加されている第二わらしべ園を訪問し、生活支援員の池脇大吾氏と坂本美由紀氏、看護師の椿野智子氏よりお話を伺いました。

隆光学園と合同チームで出場して下さる事業所を探して、第二わらしべ園施設長の西島利彦氏にお声掛けをさせて頂き、2018（平成30）年より合同チームとして活動することになりました。コロナ禍で活動を自粛することもありましたが、今年7月から合同練習を再開しています。

第二わらしべ園のソフトボール以外では障がい者柔道やホノルルマラソンへの参加、法人研修会にスペシャルオリンピックスの井上幹一氏を講師としてお招きし具体的な活動内容をお話しいただくなど法人全体で、障がい者スポーツに力を入れておられます。「スポーツを通して地域交

合同チームで出場・初めての沖縄遠征 ～第二わらしべ園 スポーツへの思い～



第二わらしべ園・隆光学園合同チーム

流を行いながら生活の質を高めること、利用者さんが観る側でなくスポーツを楽しんでもらうことを大切にしていく」と池脇氏より伺いました。

このような法人の考えのもと、今年3月に沖縄遠征に行かれています。沖縄へ遠征を行うきっかけになったことは、昨年のソフトボール大会で初めて1点を取った感動です。ソフトボール活動に力を入れて取り組みたいとの想いから、沖縄遠征が実現したとのことでした。沖縄への遠征中は、現地の大学生と練習を通して交流を深め、来年度も沖縄へ遠征することが決まってい

るようです。

沖縄遠征を通して、椿野氏は「利用者さんにとって飛行機に乗って移動することが初めての経験で、職員も今まで同行したことが無かったため、発作など緊急事態に備えての準備は大変だったが、今までに経験したことが無いことを体験して欲しいという思いで実現に至った」、坂本氏は「利用者さんも私たちも色んな経験を積み重ねて今がある。利用者さんにとっては初めての経験だったが良い刺激になった。これからも利用者さんの挑戦したい気持ちを大切にしたい」と話しておられました。

今回の取材を終えて感じたことは、ソフトボール大会がきっかけとなって、利用者さんの興味や関心が、自分の意志で選択できる経験や、今まで経験したことが無いことを体験することが、日常生活の豊かさに繋がっているということ。大阪フレンドシップソフトボール大会の参加チームが減少傾向にありますが、今川学園と第二わらしべ園のエピソードを伺っていると、ソフトボール大会に参加された選手の手皆さんが楽しんでおられる様子が頭に思い浮かびました。改めてソフトボール大会を続けていくことの意義を発信していきたいと感じた取材となりました。

（広報委員 吉村周一）

良い支援GH版・児童版発行

令和3年度に発行しました小冊子「良い支援しよう～私のお守り手帳～」続編としまして、この度GH版そして児童版を発行しました。会員事業所・関係機関皆様には7月より献呈させていただいております。

「良い支援しよう」同様に本小冊子を手にした一人ひとりが多く書き込みをすることにより、作り上げていく未完成版となっております。ご活用いただければ幸いです。

小冊子についてのお問い合わせは、大阪知的障害者福祉協会事務局にお願いします。



事務局長挨拶

千葉文子

この度、中川事務局長後任としまして事務局長をさせていただくことになりました。

入局させていただき早6ヶ月が過ぎましたが、正直まだまだ右往左往状態でございます。

事務局長という大役をいただき、大変責任を感じております。会長はじめ役員皆様と協力し、会員事業所皆様に活動(部会委員会・研修)・障害福祉等における必要な情報提供が出来るよう努めてまいりたいと思います。今後とも、宜しく申し上げます。



「利用者」という方には違和感を覚え、障害福祉サービスという枠を超えて活躍していただくために自分たちがやるべきことはいったい何だろうか？と、日々悩みながら今日もベテランさんたちに支えてもらい、私は仕事をしています。この場をお借りして「ありがとう」

今回は市立ひらかた子ども発達支援センター保育士の方にお願いします

第41回スポーツフェスタ 2023大阪

今年も、スポーツの季節になりました。10月9日(月)の水泳、卓球競技を皮切りに、第41回スポーツフェスタ2023大阪が行われました。10月14日(土)にヤンマースタジアム長居にて総合開会式を執り行い、陸上競技や、フライングディスク、レクリエーションがありました。他にも、サッカーや、ソフトボール、バスケットボール、ボウリングがありました。他にも、サッカーや、ソフトボール、バスケットボール、ボウリングがあり1300名を超える参加となりました。ボウリングはマグスミノエにて、4年ぶりに開催することができ、どの競技も皆様日頃の練習を遺憾なく発揮されており、笑顔あり涙ありの大会となりました。参加された皆様をはじめ、運営等皆様の協力で大成功することができました。この場をお借りしお礼申し上げます。来年度もどうぞよろしくお願致します。

(支援スタッフ委員長 松田隆作)



ちょっとつぶやき... リレー

ベテランに支えていただいています!

ひらかた・にし福祉工場 工場長

高瀬(津田) 佳子



私が2015年4月より勤務している「ひらかた・にし福祉工場」の就労継続支援A型は

清掃業と弁当製造の二つの業務を行っています。利用者さんの中には2010年から在籍されているベテランの方が数名いらっしゃいます。もちろん在籍期間は私よりもはるかに長く、人生の先輩もいらっしゃると思います。勤務時間も短く、ボーナスもない、そんな待遇にも関わらず、毎日休まずに出勤し、日々の業務を淡々とそして黙々とこなす。まさにその姿は「職人」のようです。

「利用者」という方には違和感を覚えます。障害福祉サービスという枠を超えて活躍していただくために自分たちがやるべきことはいったい何だろうか？と、日々悩みながら今日もベテランさんたちに支えてもらい、私は仕事をしています。この場をお借りして「ありがとう」